

あぐりめ〜る新川

第77号(平成29年12月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765) 52-0268
(0765) 52-5192
農業普及課 (0765) 52-0094
(0765) 52-0945
(FAX) (0765) 52-3115

新川 農業の未来を担う人 ~第23回~ 島 是仁さん(黒部市出島)

~地域特産物の産地継承に貢献したい~

島是仁さんは、平成24年に建設会社を退社し、新しい農業の可能性を探るため、父親の農業経営の一部(丸いも、里芋、銀杏)を引き継ぎました。また、地域の重点品目である「ねぎ」を新たに取り組むため、平成26年から農家研修を行い、平成27年度からはとやま農業未来カレッジに入校し、第1期生として技術や知識を醸成しました。

平成28年4月から本格的に就農し、現在丸いも30a、里芋30a、ねぎ5a、銀杏5aを栽培し、地域の担い手として産地の継承に貢献しているとともに、里芋のエコファーマーを取得し、顔の見える農業を取り組みたいと考えています。



~販売力強化と経営拡大を目指して~

丸いもは自然薯や山芋の仲間、強い粘りと大きな丸い形が特徴です。黒部丸いも生産組合は30年の歴史があり、12名の先輩方にご指導を受けながら、日々研鑽に励んでいます。特に「丸さ」を追及しているため、肥料や被覆資材の比較試験を積極的に取り組んでいます。

今後は、丸いもを主体とした経営面積の拡大に向けて、各品目の技術的改善点を洗い出し、高品質生産に努めるとともに、利益率の向上を図るため、直売等の顔の見える販売に取り組んでいきたいと考えています。



(写真は丸いも生産組合、本人は右から3人目)

- P.2、3…平成29年産稲作を振り返って ~気象変動に耐えうる技術対策の徹底~
- P.4、5…「ふじ」だけじゃない! 人気上昇中の中生りんご
- P.6…GAPの実践~組織内での役割分担と意思決定~
- P.7…中山間地域等担い手農地集積支援モデル事業について
- P.8…耳寄り情報 その1 いよいよ決算! ~管内のパソコン簿記研修会の開催情報~
その2 『入善・朝日農業女子のつどい』が開催される!

平成29年産稲作を振り返って ～気象変動に耐えうる技術対策の徹底～

富山県の作況は「平年並み」の100、また、新川地区のうるち玄米1等比率は10月末現在で93.3%と、4年連続で90%以上となりました。

本年は、登熟期間中の低温や日照不足により収量が伸び悩みましたが、品質は、基白・背白粒などの白未熟粒の発生が少なくなり良好なものが確保されました。気象変動が大きい中、これまで重点に推進してきた技術対策が被害を最小限に抑えたと考えられます。

管内のコシヒカリ展示ほの調査結果等を基に、今年度の稲作を振り返ってみましょう。

表1 うるち玄米1等比率 (%)

区分	29年産	品種別内訳			(参考) 28年産
		コシヒカリ	てんたかく	てんこもり	
新川管内	93.3	92.8	96.7	98.9	95.4
富山県	91.1	90.0	95.2	96.1	91.0

注) 10月末現在

ポイント1 穂数型稲への誘導 ～目標の㎡当たり着粒数を確保したが……～

栽植株数は、平成25年以降、70株植えがほぼ定着してきています(H29調査ほ平均20.2株/㎡)。

田植以降の強風によって植え傷みが発生したものの、栽植株数の確保や浅水管理、5月中～下旬の好天により、初期生育は近年並みに確保しました。その後、茎数は増加し続け、6月の気温が低く推移し茎数の淘汰が進まなかったことから、穂数は近年並みを確保しました。

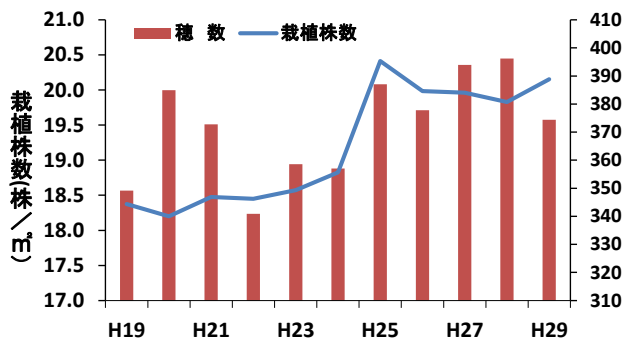


図1 年次別栽植株数と穂数の推移 (新川展示ほ)

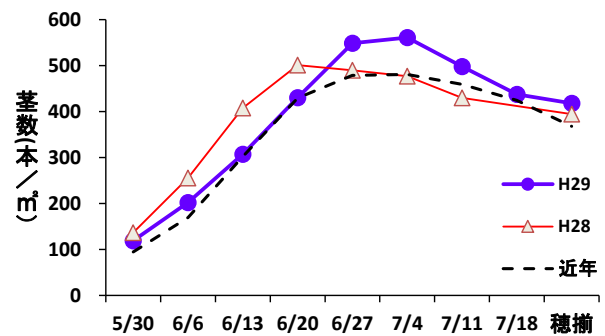


図2 茎数の推移 (新川展示ほ)

葉色は、田植以降、淡目に推移し、6月中旬～7月上旬も同様の経過を辿り、その間の葉色の低下は遅く、幼穂形成期の葉色は、近年に比べ濃い状況となりました。また、出穂7日前頃の葉色は中干しや飽水管理などの徹底により急激な低下は避けられ、稲体の活力が維持されました。

穂数は、やや少なくなりましたが、一穂粒数は75粒とやや多くなり、㎡当たり着粒数は近年並みを確保し過剰着粒数を回避しました。しかし、出穂前後からの日照時間が極めて少なく、登熟歩合が低くなり屑米が多く発生しました。如何なる気象変動にも対応するための「穂数型稲」を目指すには、栽植株数を増加し茎数や穂数を確保し、適正な一穂粒数に誘導することが重要です。

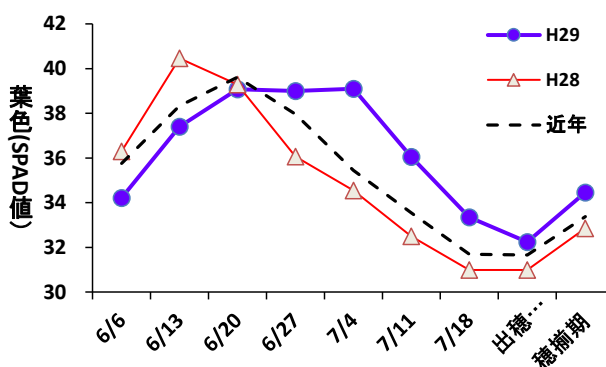


図3 葉色の推移 (新川展示ほ)

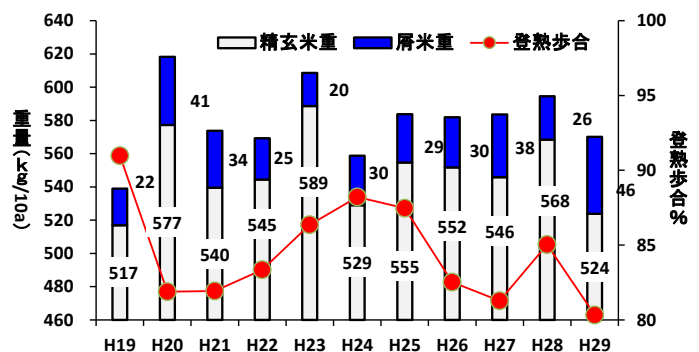


図4 年次別精玄米重・屑米と登熟歩合の推移

ポイント2 しっかりした根づくり ～中干しの徹底～

中干しは、田植1か月後から適期に実施されました。期間中は、気温が低かったものの降水量が極めて少なく、中干しが適正に実施され、田干しの効果は例年になく高まり、しっかりと「根づくり」が実践されました。

しかし、中干しが十分でなかったり遅れたりすることにより、 m^2 当たり粒数が多くなると乳白粒の発現が多くなる傾向がみられるため、次年度以降も継続的に適期に中干しを徹底し、「根づくり」に努めることが重要です。



写真1 中干し程度による根量の違い

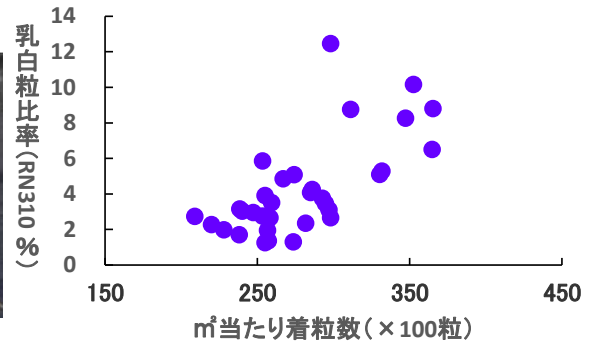


図5 m^2 当たり着粒数と乳白粒

ポイント3 高温登熟の回避 ～出穂後低温で推移～

管内の出穂期は平均8月3日となりましたが、出穂後10日間の平均気温は26.4℃、出穂後20日間の平均気温は26.0℃となり、高温障害の目安となる27℃を下回り、基白粒や背白粒といった白未熟の発生が少なくなりました。

近年の登熟期の気温は上昇傾向にあるため、次年度以降も、引き続き、田植の繰り下げや、繰り下げに応じた活力の高い苗に仕上げるための健苗育成を図ることが重要です。

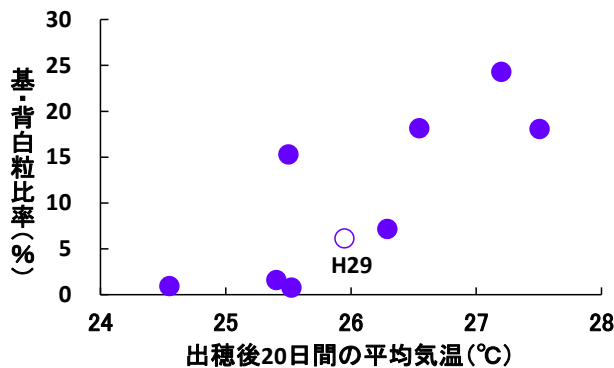


図6 年次別出穂気温と基・背白粒

表2 出穂後20日間の平均気温

年次	気温℃	出穂期
H29	26.0	8/3
H28	26.3	8/2
H27	25.4	8/4
H26	25.5	8/3

ポイント4 適期刈取りの励行 ～適期に刈取りが実施～

コシヒカリの成熟期頃にフェーン気味の高温となり、胴割粒の発生が懸念されましたが、登熟後半は気温が平年並み～やや低めに推移したことや、成熟期に応じた早めの刈取りにより、胴割粒の発生はほとんどみられませんでした。

収穫時期が遅くなると胴割米の発生や稲体の活力低下による茶米の発生が増加するため、経営体ごとに、「刈取り」・「乾燥調製」能力を十分考慮した作付計画(作期分散)が重要です。

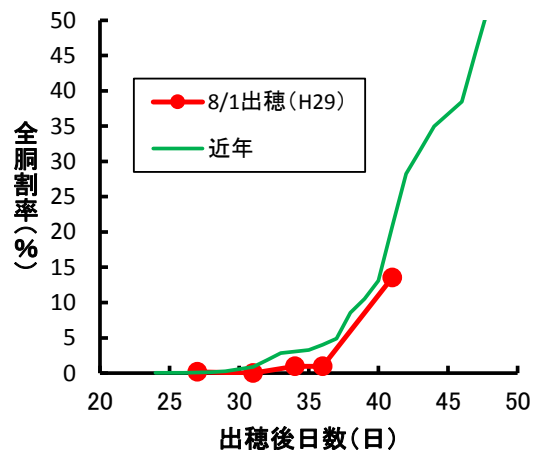


図7 コシヒカリの全胴割率の推移(農研)

「ふじ」だけじゃない！ 人気上昇中の中生りんご

りんごの代表的な品種は、11月中旬から収穫を迎える「ふじ」ですが、近年9～10月に収穫される食味良好な中生品種が数多く登場し、消費者の注目が集まっています。また、中生品種は色や大きさ、食味のバリエーションが豊富であることから、生食だけでなく、レストランや洋菓子店の加工業務用としてのニーズも増加しています。

今回は、りんご生産における中生品種導入のメリットと有望な品種を紹介します。

1. 中生品種導入のメリット

(1) 労力分散で果実品質が向上！

県内産りんごの約80%を「ふじ」が占めています。そのため、葉摘み等の着色管理や収穫作業が短期に集中し、作業遅れによる品質低下が発生しやすく、規模拡大の阻害要因にもなります。そこで、中生品種を積極的に導入し、品種構成を是正することで、園地全体の果実品質の向上や栽培面積の拡大につながります。

(2) 気象災害リスクを回避！

収穫時期が遅い品種ほど、台風や11月の強い季節風等による気象災害に遭遇するリスクが高くなります。リスク分散のために、早生・中生・晩生を組合わせた品種構成とすることが重要です。



(3) 新たな販路の確保

近年、歳暮や冠婚葬祭返礼等の儀礼的需要（フォーマルギフト需要と呼ばれます）は縮小傾向にあります。一方、個性的な商品やサービスを贈るカジュアルギフト需要や、外食・中食産業からの加工業務用果実への需要は拡大しています。

中生品種はそれぞれ個性的な特徴があり、様々なニーズに対応できるとともに、販売期間の拡大により新たな顧客や販路を拡大することができます。

2. おすすめの中生品種

表中の品種特性を参考に、ぜひ中生りんごの導入・拡大を検討してみてください。苗木は、信頼できる業者になるべく早く注文し、優良な苗木を確保しましょう。

品種名 (括弧内は交配親)	特徴	栽培上の留意点
シナノドルチェ (ゴールデンデリシャス×千秋) 	収穫期：9/16～9/24 収量性：2.8 t /10a 果実重：330g 糖度：13.8度 酸度：0.34% ・特徴的な縦長の果形で、玉揃いが良い ・サクサクとした食感で、果汁が多く、 香り、甘味と酸味のバランスが非常に良い ・日持ち性は常温で7日、冷蔵で30日程度	・非陽光面は着色しにくく、葉摘み玉回しは必須 ・収穫前落果が発生しやすく、落果防止剤の散布が必要
しゅうよう 秋陽 (陽光×千秋) 	収穫期：9/25～10/9 収量性：3.2 t /10a 果実重：340g 糖度：14.7度 酸度：0.43% ・3倍体品種で大玉になる(受粉樹には不適) ・果汁多く、 甘味・酸味ともに強い、濃厚な食味 ・日持ち性は常温で5日程度と、シナノドルチェよりやや劣る	・樹勢強い ・着色しにくいので、葉摘み玉回しが必要 ・収穫前落果が多く、落果防止剤の散布は必須

品種名 (括弧内は交配親)	特徴	栽培上の留意点
<p>こうぎよく 紅玉 (エソーパスの実生)</p> 	<p>収穫期：9/24～10/5 収量性：2.0 t /10a 果実重：230g 糖度：14.0 度 酸度：0.64%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>酸味が極めて強く</u>、果肉は硬め ・ 現在では生産量が少なく、<u>加工業務用としての需要が多い</u> ・ 日持ち性は劣り、冷蔵でも果肉軟化はやや早い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ うどんこ病に弱い ・ ビターピットが発生しやすい ・ つるサビの発生が多いので、中心果を利用する ・ 果肉軟化が早いため、適期収穫に留意する
<p>あきばえ 秋映 (千秋×つがる)</p> 	<p>収穫期：9/25～10/8 収量性：2.8 t /10a 果実重：301g 糖度：13.8 度 酸度：0.34%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特徴的な濃い赤色で、着色良好 ・ 果汁はやや少ないが、パリッと硬めの食感で、<u>甘味と酸味のバランスが良く、食味良好</u> ・ 日持ち性が良く、<u>生食用、加工用ともに人気が高い</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ つるサビの発生が多いので、中心果を利用する ・ 結実した枝は樹勢低下しやすく、主枝先端の樹勢は先刈り等で維持する ・ 収穫前落果が見られるので、落果防止剤の散布が必要
<p>こうたろう (ふじ×はつあき)</p> 	<p>収穫期：10/7～10/24 収量性：2.7 t /10a 果実重：313g 糖度：15.2 度 酸度：0.36%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鮮紅色に着色し、外観良好 ・ 香り高く、酸味が少なく、濃厚な甘味があるので、<u>生食用として消費者からの評価が高い</u> ・ 他県での生産が少なく、差別化が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腋花芽の着生が多く、摘花を徹底する。 ・ 小玉果になりやすいので、早期摘果を実施し、仕上げ摘果では長円形の果実を残す
<p>シナノゴールド (ゴールデンデリシャス×千秋)</p> 	<p>収穫期：10/12～10/28 収量性：3.0 t /10a 果実重：313g 糖度：14.2 度 酸度：0.36%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 黄色系品種で、着色管理が不要 ・ パリッと硬めの食感で、果汁が多く、爽やかな風味 ・ <u>日持ち性が非常に高く</u>、常温では20日、冷蔵では年明け1月まで果肉硬度を保つことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早採りすると酸味が強く、収穫が遅れるとがくあ部の裂果が発生するので、適期収穫に努める ・ 収穫前落果が見られるので、落果防止剤の散布が必要

(表中の値は H28 年時の果樹研究センター平年値)

GAPの実践

～組織内での役割分担と必要な知識～

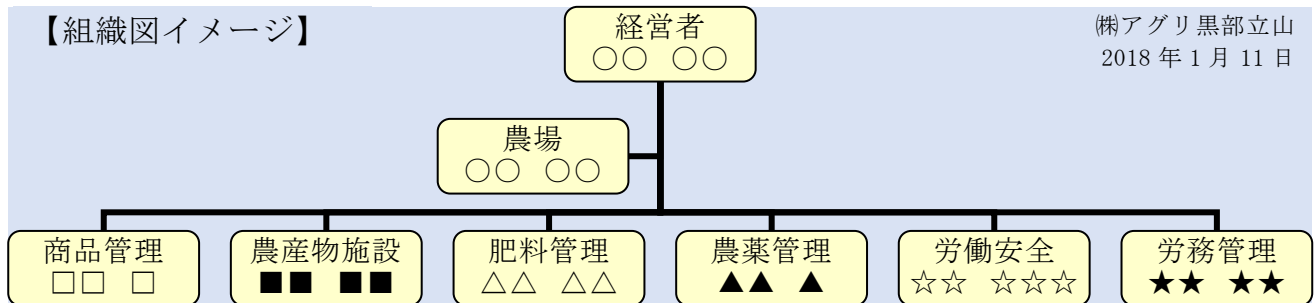
今回は、GAPの実践に当たり、①組織内での役割分担と、②役割分担に基づき様々な取引や行動を指揮する体制の整備について考えてみましょう。

1. GAPで必要な役割分担とは

役割分担といえば、通常、水稻担当、転作担当、会計担当などが頭に浮かびますが、**GAPでは右記の責任者を組織図で明示すること**(下記イメージ)が求められます。

同じ人で複数の管理を兼務する運営でも構いませんが、その人に業務が集中しすぎないようにしましょう。

- ①経営者および農場の責任者(全てを統括する立場)
- ②商品管理(商品管理や苦情等の対応を統括)
- ③農産物取扱い施設管理(乾燥施設等の管理を統括)
- ④肥料管理(肥料の設計、使用、保管を統括)
- ⑤農薬管理(農薬の選択、使用、保管を統括)
- ⑥労働安全管理(安全作業と事故の抑止を統括)
- ⑦労務管理(職場環境や労働の管理を統括)



2. 各責任者に求められる知識

- (1) 農場の責任者
農場運営に関し執行する人で、以下の各役割を総括する人です。
- (2) 商品管理の責任者
包装、重量など販売する商品の仕様を管理する責任者で、①食品表示、②JAS規格、③計量、④食品衛生責任者(資格)に関する知識の向上が求められます。
- (3) 農産物取扱い施設の責任者
乾燥調製施設、販売施設などを管理する責任者で、農産物等が農薬や油などと交差汚染しないこと、虫やネズミなどの害がないか確認することが求められます。
- (4) 肥料管理の責任者
農地の土壌診断や栽培ごよみなどから、肥料の設計、施肥、在庫などを管理する責任者で、①土壌肥料、②土壌医(資格)に関する知識の向上が求められます。
- (5) 農薬管理の責任者
農薬の選択、保管、使用、在庫などを管理する責任者で、①最新の農薬使用基準の情報、②農薬管理指導士(資格)に関する知識の向上が求められます。
- (6) 労働安全の責任者
危険な場所や作業はないか(ヒヤリハット)を確認し対策をとる責任者で、①メーカーからの使用方法、②応急手当の講習を受けるなど、知識の向上が求められます。
- (7) 労務管理の責任者
作業や労働の環境を管理し、作業者の体調や負担となる作業を認識し対策をとる責任者で、①労働衛生、②社会保険労務に関する知識の向上が求められます。

これから、決算を経て総会や事業計画策定などの時期を迎えますが、自己の経営においてもGAPを意識した役割分担を考え、より良い経営体に向かって前進しましょう。

中山間地域等担い手農地集積支援モデル事業について

担い手不足により営農の維持が困難な集落が出始めている中山間地域では、耕作放棄地の増加を防ぐためにも、集落外部の担い手による継続的な営農を維持する必要があります。



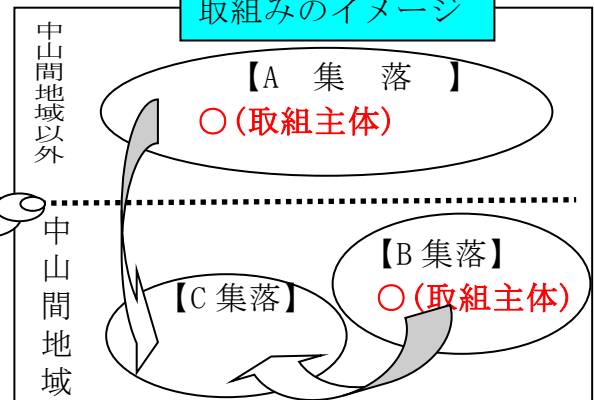
そこで、県では、経営発展に意欲のある担い手が、集落を超えて中山間地域内の集落（2. 対象地域内にある集落）から新たに農地を借り受ける取組を支援する「**中山間地域等担い手農地集積支援モデル事業**」を実施しています。

1. 取組主体

- ・人・農地プランに位置付けられた中心経営体
- ・認定農業者
- ・認定新規就農者

中山間地域 C 集落の農地を集落外の担い手が新たに借りるようなケース

取組みのイメージ



2. 対象地域

市町村名	地域名
魚津市	上中島、松倉、上野方、片貝谷、西布施
黒部市	田家、前沢、東布施、浦山、下立、内山、愛本
入善町	舟見
朝日町	全域

3. 助成内容

区分	内容	補助率・助成額
①基本助成	取組主体が、集落を超えて対象地域で取り組む「ほ場均平」、「耕起」、「土壌改良」、「土壌分析」等のための経費を支援	事業費の 3/4 以内 (県 1/2, 市町 1/4) 上限 7,500 円/10a
②転換助成	①の取組農地で新たに畑作物等を導入する場合、基本助成に加えて、試験栽培のために必要な資材(種苗, 肥料, 農薬, 小農具)の取得のための経費を支援	事業費の 3/4 以内 (県 1/2, 市町 1/4) 上限 7,500 円/10a

※「転換助成」では、栽培が翌年度になる場合でも、年度内に行う栽培準備のための資材の取得も対象になります。

4. 採択要件

- 50a 以上の中山間地域等の農地を農地中間管理機構を介して新たに貸借(10年以上)
- 農地の出し手と担い手による営農計画(経営効率プラン)を策定

◎本事業の実施期間は平成 30 年度までです。実施を希望される場合は、お早目に各市町又は農林振興センター経営支援班(52-0268)までご相談をお願いします。

その1 いよいよ決算！～管内のパソコン簿記研修会の開催情報～

新川農林振興センターでは、各市町の担い手育成総合支援協議会等と連携し、決算に向けた「パソコン簿記」の研修会や相談会を計画しています。

パソコンによる簿記は、取引の入力を行うだけで決算書や申告書まで作成できることや、前年との比較も簡単にできるなど、会計管理が省力化されます。

12月現在で計画されている研修会をご案内いたしますので、是非、受講して下さい。



パソコン簿記研修会

(主催:黒部市再生協議会)

1.月日 平成30年1月17日(水),1月24日(水)
1月31日(水),2月7日(水)
の4回シリーズ

2.時間 各回とも13:30～16:30

3.場所 黒部市役所2階会議室

4.対象 黒部市の認定農業者、集落営農組織

5.持参する物 原則、パソコンと簿記ソフト

6.受講料 無料

申込みは、黒部市からの案内文書で申し込んで頂くか下記へご連絡下さい。

新川農林振興センター経営支援班

TEL 52-0268 FAX 52-3115

パソコン簿記個別相談会

(主催:黒東地域担い手育成総合支援協議会)

1.月日と場所

平成30年2月26日(月) 朝日町役場2階

平成30年3月7日(水) 入善町役場3階

2.時間 両日とも午前9:00～午後4:30まで

の間に1人60分～90分

3.対象 入善町、朝日町の認定農業者等

4.持参する物 簿記のデータのあるパソコン

5.相談料 無料

6.注意事項 時間予約制なので、必ず事前にお申込み下さい。

申込みは、入善町、朝日町からの案内文書で申し込んで頂くか、左記へご連絡下さい。

その2 『入善・朝日農業女子のつどい』が開催される！

黒東地域農業技術者協議会・生活部会では、11月22日(水)に入善まちなか交流施設うるおい館で、女性だけの交流会「入善・朝日農業女子のつどい」を初めて開催しました。

つどいは、入善町、朝日町の農業に携わる女性【農業女子】が、相互理解を深め、連携を広めることを目的にしたもので、日頃の仕事内容が農産加工や農業生産などいろいろな、30代から70代の方々に、30名の参加がありました。

当日は、パート1の研修会では、コミュニティの大切さをテーマとして経田博子様からの講演と、農業に新規就農した30歳台の農業女子や両町を代表する農産加工組織を主宰されている方々からの活動紹介という内容でした。

また、パート2では「地産地消で新たな味を再発見」と題して、地元の加工品を味わいながら、自己紹介、会話、ゲームで交流を深めました。

参加者からは、「知り合いが広まり、勇気や自信もわいてきたし、お互い相談し合えそう。これからも集いは続けてほしい」という声が多くありました。

(経営支援班 52-0268)

